

ニューガラスフォーラム

会 務 報 告

■ニューガラスフォーラム設立発起人会

日時：昭和60年6月11日 14：00～16：30
場所：日本ガラス工業センタービル 9階「会議室」

議題

- (1) 設立趣意書について
- (2) 規約について
- (3) 役員候補について
- (4) 設立総会までの日程及び設立総会招集について
- (5) 会員募集について
- (6) 事務局体制について
- (7) 企画推進会議について

審議概要

当日は、通産省・新村課長をはじめ、窯業建材関係スタッフ多数の出席のほか、設立発起人会社15社より2名ずつの参加をえて開催し、本日をもって設立発起人会とすることに決定。また、発起人代表にHOYA(株)社長・鈴木哲夫氏が選出された。なお、発起人会終了後、京都大学作花教授の「ニューガラスの発展と今後の展望」と題する講演会が開催された。

■ニューガラスフォーラム設立総会ならびに披露パーティー

日時：昭和60年7月16日 14：00～18：00
場所：東京プリンスホテル「末広の間」

議題

- 第1号議案：ニューガラスフォーラム規約の件
第2号議案：ニューガラスフォーラム特別会員選任の件
第3号議案：ニューガラスフォーラム役員選任

の件

- 第4号議案：60年度事業計画の件
第5号議案：60年度収支予算の件
第6号議案：企画推進会議委員選任の件
報 告：事務局体制について

審議概要

提出された原案通り承認された。選任された特別会員・役員・企画推進会議委員は次の通りである。

◎特別会員

- | | |
|---------|------------------------|
| 安 井 至 | 東京大学 生産技術研究所 助教授 |
| 一ノ瀬 昇 | 早稲田大学 理工学部 金属工学科 教授 |
| 塩 寄 忠 | 京都大学 工学部 電子工学科 助教授 |
| 宮 崎 保 光 | 豊橋技術科学大学 第四工学系 教授 |
| 荒 井 和 雄 | 電子技術総合研究所 材料部主任研究官 |
| 国 分 康 雄 | 横浜国立大学 工学部 教授 |
| 作 花 濟 夫 | 京都大学 化学研究所 教授 |
| 寺 井 良 平 | 大阪工業技術試験所 ガラス物性研究所 室長 |
| 小長井 誠 | 東京工業大学 工学部 電子物理工学科 助教授 |
| 速 水 諒 三 | 工業技術院 大阪工業技術試験所 所長 |
| 多 田 邦 雄 | 東京大学 工学部 電子工学科 教授 |
| 南 努 | 大阪府立大学 工学部 応用化学科 助教授 |
| 北 澤 宏 一 | 東京大学 工学部 物理工学科 助教授 |
| 牧 島 亮 男 | 科学技術庁 無機材質研究所 主任研究官 |

◎役員

代表世話人

鈴木哲夫 HOYA(株) 社長

世話人(産)

金井英三 旭硝子(株) 専務
 島敬 日本板硝子(株) 常務
 長崎準一 日本電気硝子(株) 会長

世話人(学)

作花济夫 京都大学化学研究所 教授

世話人(官)

速水諒三 工業技術院 大阪工業技術試験所 所長

監事

田端精一 佐々木硝子(株) 技術顧問
 北島正和 古河電気工業(株) 経理部長

◎企画推進会議委員

(学)

[座長]

作花济夫 京都大学化学研究所 教授
 安井至 東京大学 生産技術研究所 助教授
 南努 大阪府立大学 工学部 応用化学科 助教授

(官)

寺井良平 大阪工業技術試験所 ガラス物性研究所 室長
 荒井和雄 電子技術総合研究所 材料部 主任研究官
 牧島亮男 科学技術庁 無機材質研究所 主任研究官

(産)

[副座長]

鈴木由郎 旭硝子(株) 研究開発部 主幹研究員
 下野富士男 石塚硝子(株) 研究開発部

研究所 係長

豊田洋一 佐々木硝子(株) 技術企画部 開発課長
 田中稔 住友電気工業(株) 東京総務部総務課
 田渕平次 セントラル硝子(株) 研究開発部 技術参事
 伴一成 東芝セラミックス(株) 技術部長
 上田市三 日東紡績(株) グラスファイバー営業本部 開発担当部長
 入江正教 日本板硝子(株) 品質技術管理部 次長
 磯部司郎 日本光学工業(株) 硝子製造部技術課 マネージャー
 和田正道 日本電気硝子(株) 取締役 技術部長
 真田和夫 藤倉電線(株) 技術開発部 第2通信技術開発部 部長
 黒羽敏明 古河電気工業(株) 研究開発本部 技師長
 泉谷徹郎 HOYA(株) 常務 技術研究所 所長
 長谷川洋 松下電子部品(株) 研究開発センター 部品技術開発室 主任技師
 小川昇 山村硝子(株) テクニカルアドバイザー

事務局体制については、鈴木代表世話人より日本硝子製品工業会に置くよう指名があった。なお、当日はほとんどの会員会社出席のもとに開催され、披露パーティーは200名を上回る参加者でにぎわった。

■第1回世話人会

日時：昭和60年9月5日 17：00～19：30
 場所：ホテルオークラ本館「暁の間」

議題

(1) 今後の進め方について

- 1) 企画推進会議運営方法検討について
- 2) セミナー開催及びスケジュールについて

(2) その他

審議概要

通産省・窯業建材課・新村 明課長以下3名の来賓出席者を迎え、今後の進め方について検討を行った。会議終了後、同場所で懇親会を行った。

プログラム

1. レーザー用ガラス (13:00~13:55)
 - レーザー発振と使用される材料
 - レーザー用ガラスの現状と将来
 大阪大学 レーザー核融合研究センター
教授 加藤義章
2. 光ICとガラス (13:55~14:50)
 - 要素となる光電子機能
 - 光ICの将来
 - 光ICに期待されるガラス材料
 東京大学 工学部 電子工学科
教授 多田邦雄

■セミナー関係

◎第1回セミナー

日 時：昭和60年9月6日 13:30~17:00
場 所：農協会館 8階 国際会議室

プログラム

挨拶 (13:00~) 世話人代表 金井英三

1. ニューガラスの展望 (13:05~)
京都大学 化学研究所 教授 作花済夫
2. ニューガラスへの歩み (13:55~)

HOYA(株)常務 技術研究所
所長 泉谷徹郎

休 憩

3. ここまで来た光ファイバー (15:00~)
NTT(株) 茨城電気通信研究所
複合材料研究部

部長 高田久夫

4. ニューガラスへの期待 (16:00~)
松下電子部品(株) 磁気記録開発センター
所長 三小田 眞彬

当日は会費を無料とし、会員関係は何人でも入場可としたため、250名を上回る参加者でにぎわった。

◎第2回セミナー

日 時：昭和60年11月6日 13:00~17:00

場 所：新橋住友ビル1階大会議室

主 題：「オプトエレクトロニクス」

参加費：1人 2,000円

休 憩

3. マイクロオプティクス (15:05~16:00)
 - ガラスを用いた微小光学
 - 素子の応用と用途
 日本板ガラス(株)中央研究所
常勤顧問 北野一郎

講 表(1) (16:00~16:15)

- ガラスに期待すること
- 日本電気(株)光エレクトロニクス研究所
光基礎研究部 部長 鷺尾邦彦

講 表(2) (16:15~16:30)

- ガラスに期待すること
- 豊橋技術科学大学 第四光学系
教授 宮崎保光

質疑応答 (16:30~17:00) 全講師による

当日は会場の関係から1社3名以内と限定したにもかかわらず、200名に近い参加者があった。

◎第3回セミナー

日 時：昭和61年1月14日 13:00~17:00

場 所：(財)大阪科学技術センター 大ホール

主 題：「ディスプレイ」

参加費：1人 2,000円

プログラム

1. ニューメディア時代のディスプレイ

(13:00~14:00)

NHK放送技術研究所 テレビ方式研究部

主任研究員 杉浦幸雄

2. ディスプレイ技術の進歩

1) CRTディスプレイの進歩

(14:05~14:55)

(株)東芝 電子事業本部

本部長 付田康雄

—— 休憩 ——

2) 平面ディスプレイの進歩

(15:15~16:05)

シャープ(株)中央研究所 第4研究部

部長 松浦昌孝

3) プリンタの進歩 (16:10~17:00)

松下電子部品(株)研究開発センター

主任技師 倉増敬三郎

当日は、関西地区では初めてであるため、冒頭、日本電気硝子・長崎会長の開会挨拶の後、大阪通産局・安本商工部長の祝辞があった。また、参加者を1社5名以内と限定した。結果として150名の参加にとどまったが、関西では初めてのセミナーであったため、関西地区の参加者が目立った。

■企画推進会議

◎第1回

日時：昭和60年7月16日 14:30~15:30

場所：東京プリンスホテル「末広の間」

議題

- (1) 企画推進会議の検討事項について
- (2) アンケートのまとめについて
- (3) セミナー及び企画推進会議スケジュールについて

審議概要

企画推進会議の全委員出席のもとに開催され

た。特に今回は最初の会議でもあることから、通産省から横山、高坂、山中の三氏も出席され検討審議を行った。

席上決議された主だった事項としては、セミナー開催を2ヶ月毎に開催することと、セミナー担当会社を決定した。

◎第2回

日時：昭和60年8月6日 13:00~17:00

場所：日本ガラス工業センター9階「会議室」

議題

- (1) 前回議事録確認の件
- (2) 企画推進会議の進め方について

審議概要

各分野の調査・研究を予定通り進めるために下記の委員会を作り、主査及び委員を割当てることとした。

	主査	産	学・官
第1委員会 (光機能)	(HOYA)	石塚、作友、藤倉、古河、日東紡	多田、塩崎、国分、牧島
第2委員会 (電気・磁気機能)	(日本板)	松下、山村	南、一ノ瀬、小長井、荒井
第3委員会 (熱・機械機能)	(旭)	東芝セラ、佐々木	北沢
第4委員会 (化学・生体機能)	(NEC)	日本光学	寺井
第5委員会 (材料設計システム)	(安井)	セントラル	宮崎

広報委員会 (HOYA) 小川、旭 寺井

各委員会のうち「産」のメンバーを必要とする場合は、主査が会員会社から選ぶこととする。

なお、製法に関する委員会は時期を見て置くこととした。また、第1と第2は重複するところもあるが、それはそれで進めることとした。

各委員会の設置は、9月5日の世話人会の承認を受けることにした。

◎第3回

日時：昭和60年9月6日 17:00~19:00

場所：農協会館「会議室」

議題

- (1) 世話人会報告の件
- (2) 第2回、第3回セミナーの件
- (3) 委員会関係報告の件
- (4) 第1回セミナー報告の件

審議概要

学の特別会員のうち、国分・横浜国大教授、小長井・東工大教授、北沢・東大助教授の三人は、未だ特別会員としてご承諾をもらっていないことを報告。

日本硝子(株)(小泉氏)が、第1委員会に委員として入会を希望、承認された。

第2委員会の委員として、日立研究所の萩原氏が入会することを承認した。第4委員会の委員として、大工試の江口氏が入会することを承認した。

セミナー会費を有料にするか否かについて検討を行った。

◎第4回

日 時：昭和60年10月8日 13:30~17:00
場 所：日本ガラス工業センター9階「会議室」

議題

- (1) セミナー関係報告の件
- (2) 委員会活動状況報告の件
- (3) アンケート調査に関する件
- (4) その他

審議概要

第2委員会より、シーズに関しては官・学の研究者、ニーズに関してはユーザーを対象としてテーマ(品目)別にアンケートをとる事を考えていることが説明された。具体的な例として、シーズ：電気伝導性ガラス、ニーズ：基板用ガラスを取り上げる意向が示された。

第3委員会より、まとめ方のレイアウトを提示し、検討を行っているとの報告があった。

第4委員会より次のテーマを挙げ、分担を決めて調査するとの意向が示された。

- | | |
|-------------|---------|
| 1) 多孔質ガラス | 江口(大工試) |
| 2) 廃棄物処理ガラス | 寺井(大工試) |
| 3) バイオガラス | 日本光学 |
| 4) バイオ結晶ガラス | 日本電気硝子 |

第5委員会より、牧島委員が中心となって、科学技術庁関係で「化学物質の知識ベース」をまとめているが、これを参考にしたいとの説明があった。従って牧島委員を、第5委員会のメンバーとすることが承認された。

安井委員より、ファインセラミックス協会を通じて依頼のある「バイオセラミックス等の開発・利用動向に関する調査研究」で、安井、入江、磯部、中川、黒羽の5委員が、まとめを委嘱されたとの説明があった。席上、通産省・ファインセラミックス室・山中専門職より、ニューガラスフォーラムが今般発足したが、通産省としてその活動を支援する意味と、報告書によってPRも行う意味をもって、ファインセラミックス室で調査の予算を用意した、との説明があった。

次に、ニューガラスに関する現状と将来の市場動向を知り、また、会員の意向集約を行い、NGFの今後の活動の指針を得るため、アンケート調査することに決定。

◎第5回

日 時：昭和60年11月6日 17:30~18:40
場 所：新橋住友ビル「会議室」

議題

- (1) セミナー関係報告の件
- (2) アンケート調査に関する件
- (3) その他

審議概要

第2回セミナーは盛況であったとの報告があった。第4回、第5回セミナーの計画について検討、幹事は次の通り決定。

第4回：HOYA、東芝セラ、藤倉

第5回：旭、日東紡、佐々木

通産省・窯業建材課に新しく着任された辻窯業

班長の挨拶があり、「通産省として、ニューガラスフォーラムの動向を重要視しているの、積極的に推進して欲しい」との話があった。

◎第6回

日 時：昭和60年12月4日 13：30～16：40
場 所：日本ガラス工業センター9階「会議室」

議題

- (1) 委員会報告の件
- (2) セミナー企画報告の件
- (3) アンケート調査に関する件
- (4) 機関誌の件

審議概要

アンケート調査を実施するためワーキンググループを作ることにした。メンバーは、日東紡績、住友電工、佐々木硝子、旭硝子。アンケート調査の発送予定は12月中旬、集計は2月15日とすること等が決められた。

また、機関誌の発行については昭和61年度を目標とし、当初はセミナー講演内容、会務報告を主体とし、編集事務機能の充実に伴い内容を良くすることを確認。

◎第7回

日 時：昭和61年1月14日 17：10～18：30
場 所：大阪科学技術センター6階「会議室」

議題

- (1) 調査研究のまとめ方について
- (2) セミナー企画の件
- (3) アンケート調査に関する件
- (4) その他

審議概要

通産省・窯業建材課・辻班長、大阪通産局・技術振興課・井上課長も出席され開催された。調査研究のまとめ方については、第1章から第7章までとし、全体で1,110枚程度(B5 370頁)でまとめることを目安とした。

また、第4回セミナーのテーマを「半導体と

ガラス」、第5回のテーマを「ガラスの機械的機能」とすることも申し合わせた。

アンケート調査については、現在着々と届いているとの報告があった。

◎第8回

日 時：昭和61年2月4日 13：00～16：00
場 所：日本ガラス工業センター 9階会議室
議題

- (1) 委員会報告
- (2) セミナー企画について
第4回セミナー企画について「半導体とガラス」に決定
第5回セミナー企画「機械機能性ガラス」の内容について報告
- (3) セミナー幹事について
6回以降のセミナー幹事が決定された。
- (4) 今後の企画推進会議スケジュールについて
- (5) アンケート中間報告
- (6) 調査依頼

基盤技術促進センターから「新素材分野技術動向調査」の委託を受けた。
機関誌について広報委員会より提案され承認された。

第9回

日 時：昭和61年3月11日 17：00～18：00
場 所：農協会館
議題

- (1) 調査報告のまとめについて
- (2) 第6回セミナーについて企画「化学・生体」について検討
第5回セミナーについて報告
- (3) アンケート調査セミナー希望テーマ、開催頻度の集約が発表された。
- (4) その他 作花座長よりインドで開催された国際会議の報告